

企画・制作 毎日新聞社広告局

今日はみどりの日

全国の国営公園を知らう

緑と文化を守り、暮らしにうるおい

全国で17カ所ある、国が整備・管理を行う「国営公園」。みどりと触れ合えるのはもちろん、地域の歴史・文化遺産と接する場として、レクリエーションの場として、また災害時の避難場所としてなど、幅広い役割を担っている。都市圏とも比較的アクセスがよいので、休日に家族で出掛けてみるのもいいだろう。



佐賀県

国営吉野ヶ里歴史公園

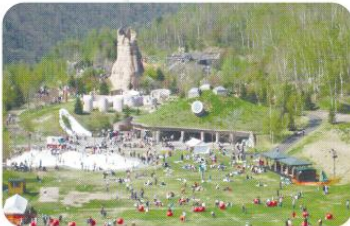
日本を代表する特別史跡・吉野ヶ里遺跡の保存と活用を図るため、佐賀県神埼市、吉野ヶ里町にまたがり設置された。高速道路や鉄道、空港など交通の便がよい公園では、「弥生人の声が聞こえる」という基本テーマのもと、竪穴式住居をはじめ弥生時代のムラを再現。親子で参加できる「火起こし」「勾玉作り」といった体験型プログラムも好評だ。



沖縄県

国営沖縄記念公園

沖縄県本部町の海洋博覧会地区と那覇市の首里城地区の2地区からなる。海洋博覧会地区は沖縄国際海洋博覧会の跡地を活用したもので、美ら海水族館や植物園、ピーナなど施設が充実。首里城地区は沖縄復帰を記念し、歴史・文化の拠点として城郭などを復元している。国内外から年間600万人以上が訪れる、沖縄県の観光拠点となっている。



北海道

国営滝野すずらん丘陵公園

札幌市の中心から約18kmの丘陵地にある。園内を石狩川の支流・厚別川が流れ、日本の滝100選のひとつ「アシリベツの滝」は壮観だ。公園作りのテーマは「自然とのふれあい」。溪流沿いは四季を通じたアウトドアの場で、また花とみどりの豊かなガーデンも広がる。野外学習や、スキーなどウインタースポーツの拠点としても活用されている。



東京都

国営昭和記念公園

昭和天皇御在位50年記念事業の一環として設置された、東京都立川市、昭島市にまたがる国営公園。大きなケヤキがシンボルの広大な「みんなの原っぱ」や伝統の造園技術を生かして四季折々の季節感を表現した「日本庭園」、ふわふわドームや虹のハンモックなど子どもたちに人気の大型遊具がある「こどもの森」など施設が充実。約1000人の市民がボランティアで公園づくりに参加している。災害時には広域避難場所として機能するなど、さまざまな役割を担っている。



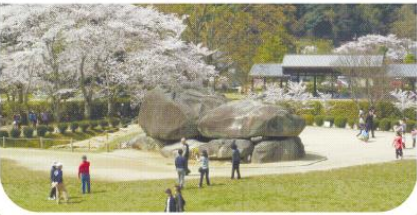
岐阜県など

国営木曽三川公園

岐阜県、愛知県、三重県の県境をなす木曽川、長良川、揖斐川の「木曽三川」流域にまたがる国内最大の国営公園。木曽三川の自然・文化を学び、水辺で遊んで楽しめる「河川環境楽園」や輪中地帯特有の水郷景観が一望できる「木曽三川公園センター」など施設が充実。地域に恵みをもたらす、治水や灌がいなど生活に密着してきた広大な水辺を生かし、レクリエーションの場であるとともに、豊かな自然環境や歴史・文化を学ぶ場となっている。

国営飛鳥・平城宮跡歴史公園

奈良県明日香村の飛鳥区域と奈良市の平城宮跡区域の2区域からなる。飛鳥区域の石舞台地区は、飛鳥のシンボルともいえる特別史跡・石舞台古墳を中心になだらかな棚田地形が広がっており、飛鳥の歴史的風土を守り、歴史・自然・人が調和した公園づくりを進めている。平城宮跡区域は、特別史跡であり、世界遺産「古都奈良の文化財」の構成資産にもなっている平城宮跡の保存・活用を図り、歴史・文化を体験できる「奈良時代を今に感じる」公園づくりを進めている。



奈良県

香川県

国営讃岐まんのう公園

香川県まんのう町に位置する四国唯一の国営公園。空海伝説も残る日本最大級のため池「満濃(まんのう)池」に隣接しており、周辺に広がる豊かな自然環境を生かした公園づくりを行っている。オートキャンプ場や大型遊具、イベント開催など四季を通して楽しめるレクリエーション拠点として、四国全域からの日帰り利用のほか、滞在客・観光客でにぎわっている。



国営公園とは

日本の公園は、都市公園だけで10万カ所以上にのぼる。都市公園は、市民の憩いの空間やさまざまな活動の場として、多彩に活用されている。そうした都市公園のなかで、国が整備・管理しているものが国営公園だ。北海道から沖縄まで全国に17カ所。最も小さい公園でも6・7ヘクタール、最大で600ヘクタールを超える大規模な空間は、年間約3800万人以上に利用されている。設置の目的は、国家的な記念事業である場合をはじめ、さまざまな広域的なレクリエーションの拠点として心身の豊かさの向上に貢献することや、都市圏におけるみどりを守ること、歴史・文化的遺産の保存・活用、地域活性化の拠点、防災のための避難場所など、地域の特徴に応じた公園づくりが行われている。いずれの国営公園でもみどりに触れられるが、国営昭和記念公園のようにもともと立地環境を活かすだけでなく、フワフワガーデンや日本庭園、武蔵野の風景の再現など国営公園ごとに多様な魅力を創出している。都市近郊でありながら四季折々の自然に触れ合える、地域におけるみどりの「中心」といえるだろう。

また、自然観察会や里山づくり体験、環境教育への活用や、市民参加によるガイドや管理などの新しい試みも進む。過ごしやすい季節、自然や歴史に触れたリレクリエーションに参加するなど、国営公園に出掛けてみてはどうだろうか。

インタビュー

みどりと公園の力を感じてほしい



国営昭和記念公園での「よみがえる樹々のいのち展」は昨年18回目を数えた

公園などの中に入ると、植物に触れることはとても大事なことです。みずみずしさに心を洗われたり、新緑や紅葉など、季節ごとの美を前にすると力がわいてきたりします。草月流では、いけばなを表現する舞台のひとつとして、国営公園で作品展示をさせていただいています。園内で剪定された樹木や間引いた竹を使い、造形作品としてよみがえらせるといふものです。国営公園のみどりの力を感じつつ、木々の良さを花の美しさに草月ならではの魅力をプラスしていこうと考えています。

国営公園のような大きな空間では、木でできたソラネルやブランコのように、場所に見合った表現が大切です。

国営公園の作品展示に挑戦することの最大の魅力です。もちろん、大規模な展示やいけばなだけではなく、花を二輪飾るだけでもその場所が華やかなり、みどりの力が備わっています。公園などみどりに触れる場所が深呼吸すると、何となく気分がかわったり、気持ちのいい空間が広がることが感じられるのではないのでしょうか。



草月流家元 勅使河原 茜さん
いけばな草月流の第四代家元。父は第三代家元で映画監督の勅使河原重。いけばなの魅力を伝えるため、東京・表参道や六本木ヒルズといった多彩な空間、また舞台・いけばなをより上げるイベント「いけばな展」(いけばな展)や、書道など他分野アーティストとのコラボレーションなどさまざまな感性で時代をとらえた独自の世界を築いている。